

この枝を直立させると2個, 2個, 2個と出ます。自然の場合にはその枝の姿勢によって1-2-1, あるいは2-2-2になります。小生の実験はこの理由は鉤を生長させる生長作用物質 (growth hormone) の重力支配によるものと帰結しています (詳細は未発表)。即ち下面になると生長作用物質がそこに作用し, 上面ですとその物が少く生長が止るわけです。dorsiventrality と growth hormone の分布とその作用機作の差異となると考えています。ついで, 桑名の葛山博次氏は, 岐阜県の養老山脈の東南端にある三重県多度山で, つぶさに, このことにつき追及された結果と標本を送りこされたが, それは, 小清水さんの結果をうらがきされるものであったので, その後, 伊豆八幡野産のものをよく見たところ, これにも同様な事実が見つかった。これらの事実から, 2-1-2 と 2-2-2 のものとともにあることがはっきりした。しかし, 後者の場合は普通でなく, 茎の先端に近い部分の直立枝にたまたま現われるもので, 常態ではなく小清水説のようなものであろう。したがって, 鉤の着生形式には両方があるわけであるから, 2-1-2 に限るようきめるわけには行かないが, 花彙の図のような枝ぶりのものに2-2-2は無理なような気がする。とにかく一般的には両方の場合のあることを附記した方がよいようである。とんだ人さわがせをいたしました。

(東邦大学薬学部)

○鉤藤について (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: On *Uncaria rhynchophylla* in China

最近北村二郎博士はカギカズラが中国にもあると書かれた (植物分類, 地理 22: 137, 1967)。このことはかなり以前から知られていたことで, 華南あたりからだされている漢方薬の鉤藤 (kou-teng) の原植物は *Uncaria rhynchophylla* (カギカズラ) であるとされている。Merrill は Tsang が広東省従化で採集した標本を, *U. rhynchophylla* と同定して各地の標本室に送った。北村氏はこの標本をもとにして書かれ, また東大にも同じ番号の標本がある。しかるに中国のものは日本のカギカズラとやや異なるので, かねてから疑問に思っていた。中国の *Uncaria* 属の種類は侯寛昭氏 (How Foon Chew) が研究し, Sunyatsenia 6 巻 (1946) に書かれている。残念ながら日本にはこの巻がないので, Merrill のいう中国のカギカズラが, どのようにあつかわれているかわからなかった。たまたまその中に *U. rhynchophylloides* How という新種がかかれているので中国のカギカズラはそれにあたるのかもしれないと考えていた。幸なことに侯氏は中国の *Uncaria* 属植物についての論文を, 薬学学報 (4: 7-16 pl. 1-2, 1956) にのせているので, 侯氏のカギカズラのあつかいがよくわかった。

侯氏は Merrill のいう中国の *U. rhynchophylla* はそのままカギカズラと同じものとしている。 *U. rhynchophylloides* は全然別のものであった。中国の鉤藤と日本のカギカズラを区別していない。しかし侯氏の記載からみても日本のカギカズラとはちがいがあ。日本のものはがく片は楕円形, 花冠は無毛, 花冠裂片は広楕円形でふちにはごく

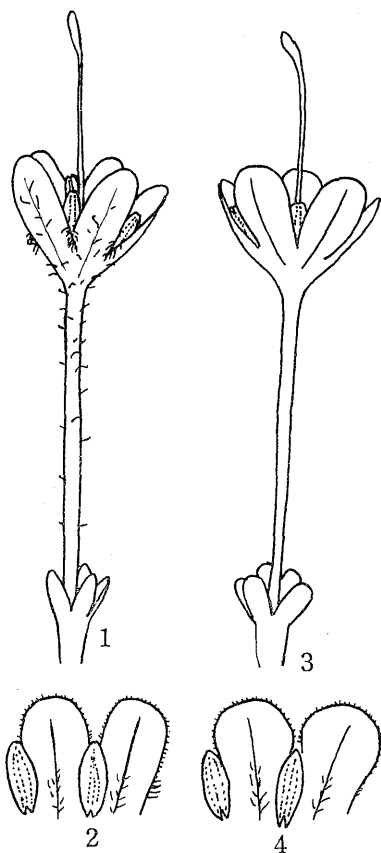


Fig. 1 and 2, *Uncaria rhynchophylla* var. *kouteng*. 3 and 4, var. *rhynchophylla*. 1 and 3, Flowers $\times 9$. 2 and 4, Petal and stamen $\times 12$.

longis margine papillois basi subdense pubescentibus differt.

Hab. China. Kwangtung, Tsungfa-Lungmoon Distr. Sam-kok-shan (W. T. Tsang, May 26, 1932. no. 20572. Typus in TI). Kiangsi, Lüshan, Lien-hua-tung (N. Fujita, Oct. 6, 1943).

短い毛があるだけである。中国のものはかく片は長楕円形、花冠外面には軟毛が散生、花冠裂片は長楕円形でふちにはごく短い毛のあるほか基部に長毛が密生する。以上のようなちがいがあるけれども、他の形は殆んどことならない。莖の鉤が中国のものの方がやや太い傾向がある程度である。したがって中国の鈎藤はカギカズラの変種としてあつかうのが適当と思う。

葉の裏面主脈上に疎毛のあるものがケカギカズラとして区別されるが、この型は九州から千葉県までカギカズラと共に広くみられ、幼木の葉にみられる傾向があるので変種として区別すべきかどうかは検討を要する。

文献で御世話になった難波恒雄氏に感謝します。(東京大学理学部植物学教室)

***Uncaria rhynchophylla* Miquel**

var. ***kouteng*** Yamazaki var. nov.

Uncaria rhynchophylla (non Jackson) sensu How in Act. Pham. Sin. 4: 13, pl. 2 (1956)—*Uncaria rhynchophylla* (non Miquel) sensu A. N. Steward, Man. Vascul. Pl. Low. Yangtze Valley, p. 367 (1958).

A typo, sepalis lanceolato-oblongis, corollis extus sparse ciliatis, petalis ob-